

CLEANING TOOL

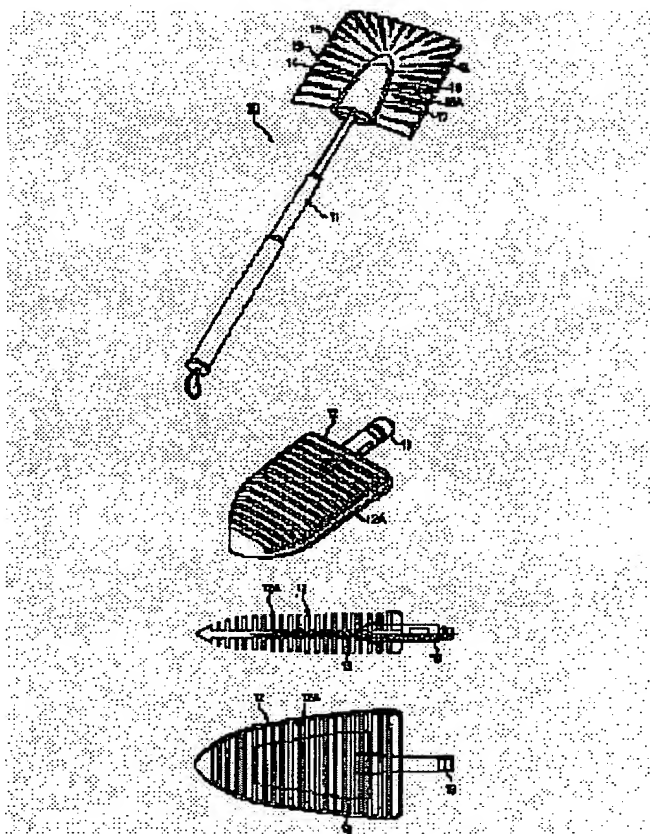
Patent number: JP10043115
Publication date: 1998-02-17
Inventor: KINUGAWA NOBUYOSHI; FUJINAMI SUSUMU;
HIRAYAMA HARUNOBU; SEDAI FUMIHIKO
Applicant: KAO CORP
Classification:
- **International:** A47L13/38
- **European:**
Application number: JP19960220780 19960805
Priority number(s):

Report a data error here

Abstract of JP10043115

PROBLEM TO BE SOLVED: To improve the ability of dirt wiping by the wiping part for a cleaning tool constituted by providing cleaning cloth, which is equipped with the wiping part and a dusting part, at the head of the top end of a handle.

SOLUTION: Concerning a cleaning tool 10 constituted by providing cleaning cloth 13 equipped with a wiping part 14 and a dusting part 15 at a head 12 installed at the top end part of a handle 11, many elastic projecting parts 12A are provided on the surface of the head 12, and the wiping part 14 of the cleaning cloth 13 is attached around the elastic projecting parts 12A on the head 12.



Data supplied from the esp@cenet database - Patent Abstracts of Japan

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-43115

(43) 公開日 平成10年(1998) 2月17日

(51) Int.Cl.⁹

A 4 7 L 13/38

識別記号

序内整理番号

F I

A 4 7 L 13/38

技術表示箇所

B

審査請求 未請求 請求項の数 2 F D (全 5 頁)

(21) 出願番号

特願平8-220780

(22) 出願日

平成8年(1996) 8月5日

(71) 出願人 000000918

花王株式会社

東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号

(72) 発明者 衣川 信義

東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会社
社研究所内

(72) 発明者 藤波 進

東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会
社研究所内

(72) 発明者 平山 晴信

東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会
社研究所内

(74) 代理人 弁理士 塩川 修治

最終頁に続く

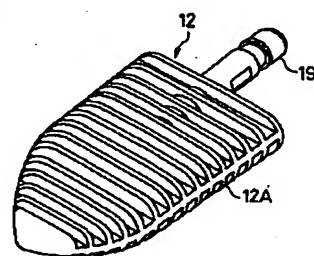
(54) 【発明の名称】 清掃具

(57) 【要約】

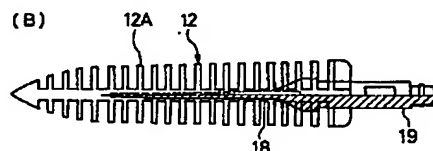
【課題】 拭取り部とはたき部を備えた清掃布を柄の先端のヘッドに設けてなる清掃具において、拭取り部による汚れ拭取り能力を向上すること。

【解決手段】 柄11の先端部に設けたヘッド12に、拭取り部14とはたき部15を備えた清掃布13を設けてなる清掃具10において、ヘッド12の表面に多数の弾性突部12Aを設け、清掃布13の拭取り部14を上記ヘッド12の弾性突部12Aまわりに被着してなるもの。

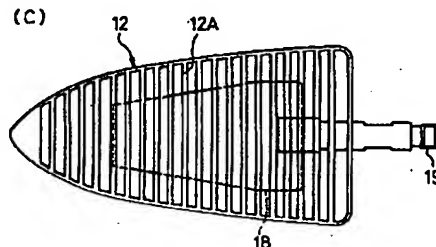
(A)



(B)



(C)



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 柄の先端部に設けたヘッドに、拭取り部とはたき部を備えた清掃布を設けてなる清掃具において、

ヘッドの表面に多数の弾性突部を設け、清掃布の拭取り部を上記ヘッドの弾性突部まわりに被着してなることを特徴とする清掃具。

【請求項2】 前記弾性突部が薄板状をなす請求項1記載の清掃具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は清掃具に関する。

【0002】

【従来の技術】家具、電化製品、照明器具等の物品もしくは建物の壁面、敷居、かもし等に付いた埃を取るための住宅用の清掃具としては、柄の先端部に複数の索状体を備えたはたきが知られている。従来から使用されているはたきは、埃の付いた対象物の表面をはたいて埃を取り去るものである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところで、従来のはたきは、上述のような使用を前提としているため、広い範囲に亘って付いた埃をきれいに拭き取ることは困難であった。

【0004】そこで、本出願人は、特願平7-196702号により、柄の先端部に設けたヘッドに、拭取り部とはたき部を備えた清掃布を装着してなる清掃具を提案した。この清掃具によれば、上記はたき部を利用したはたきとしての使用の他に上記拭取り部を利用した拭き掃除も可能であり、清掃箇所に対応した幅広い使用が可能になる。

【0005】然るに、この清掃具にあっては、拭取り部を用いる拭き掃除に際し、拭取り部による汚れ拭取り能力の向上が望まれる。

【0006】本発明の課題は、拭取り部とはたき部を備えた清掃布を柄の先端のヘッドに設けてなる清掃具において、拭取り部による汚れ拭取り能力を向上することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】請求項1に記載の本発明は、柄の先端部に設けたヘッドに、拭取り部とはたき部を備えた清掃布を設けてなる清掃具において、ヘッドの表面に多数の弾性突部を設け、清掃布の拭取り部を上記ヘッドの弾性突部まわりに被着してなるようにしたものである。

【0008】請求項2に記載の本発明は、請求項1に記載の本発明において更に、前記弾性突部が薄板状をなすようにしたものである。

【0009】請求項1に記載の本発明によれば下記①、②の作用がある。

①清掃布の拭取り部がヘッドの多数の弾性突部まわりに

被着される。従って、拭取り部を掃除対象物にこすり付けて汚れを拭き取るに際し、拭取り部の背面の多数の弾性突部が、拭取り部の拭取り面に多数の凸状の汚れ掻き取り面を形成するとともに、拭取り操作力により弾性変形して該拭取り部の拭取り面をバックアップし、結果として、拭取り部による汚れ拭取り能力を向上する。

【0010】②弾性突部の突起に清掃布が引っ掛かり、清掃中にヘッドより清掃布が外れるのを防止する。

【0011】請求項2に記載の本発明によれば下記③の作用がある。

③薄板状弾性突部の薄板に直交する方向への拭取り操作により、上記①による汚れ拭取り能力の向上をより確実にする。

【0012】

【発明の実施の形態】図1は清掃具の一例を示す模式図、図2はヘッドを示す模式図、図3は清掃布の取付状態を示す模式図、図4は清掃布の取外し状態を示す模式図である。

【0013】清掃具10は、柄11の先端部に設けたヘッド12に、拭取り部14とはたき部15を備えた清掃布13を被着して構成される。

【0014】清掃布13は繊維材料から構成され、拭取り部14とはたき部15は種々の形態とすることができる。例えば、拭取り部14は平面状をなし、はたき部15は拭取り部14の周縁に設けた短冊状をなし、或いは拭取り部14の裏面に設けたパイル状をなすものとすることができる。

【0015】清掃布13を構成する繊維材料は、織布、不織布、薄紙等のシート状の繊維材料は勿論、はたき部15に使用されるパイル等の索状の繊維材料を含むものである。上記繊維材料として不織布を使用する場合には、吸塵性に優れ且つ耐摩耗性に優れている繊維材料からなる不織布が特に好ましく使用される。このような性質を備えた好ましい不織布としては、例えば、スパンレース不織布、スパンボンド不織布、サクシオンボンド不織布、サクシオンヒートボンド不織布、メルトブローン不織布等が挙げられる。

【0016】清掃布13における拭取り部14は、当該拭取り部14が、内部に挿入空間16Aを有する袋部16の周面部を形成するように、例えば、二枚のシート状の繊維材料を重ね合わせ、更に縫合或いはヒートシールしたり（縫合部17）、或いは、一枚のシート状の繊維材料を折曲し、ヘッドの形態に対応した挿入空間16Aを有する袋部16の周面部を形成するように設けることができる。

【0017】清掃布13におけるはたき部15は、清掃布13を上記シート状の繊維材料のみで作製する場合には、繊維材料をその周縁部から拭取り部14の近傍まで切り込んで短冊状に形成したり、或いは、予めミシン目状の切り込み線を設けておいて使用時に上記切り込み線

に沿って引き裂いて短冊状に形成することができる。切り込み(又は切り込み線)の形態としては、直線状、ジグザグ状、波線状等の種々の形態が挙げられる。

【0018】また、清掃布13におけるはたき部15は、清掃布13を、上記シート状の繊維材料と別体の索状の繊維材料で作製する場合には、拭取り部14を形成するシート状の繊維材料に、はたき部15を形成する索状の繊維材料を縫合又はヒートシールすることによって、拭取り部14の周縁部又は裏面側にはたき部15を形成することが好ましい。

【0019】柄11は、2本以上の複数本の筒状部材を主体として構成し、公知の機構を用いてこれらを伸縮自在且つ係止可能に設けることが好ましい。また、柄11は、1本の棒状体からなる伸縮不能のもので構成してもよい。また、柄11の断面形状は、楕円形、円形、多角形状等の種々形状と或いはこれらの形状を組み合わせたものとしてすることができる。上記柄11を構成する上記筒状部材又は棒状体は、塩化ビニル、ABS、PE、PP、PET、アルミもしくはその合金製のものが好ましい。

【0020】ヘッド12は可撓性を有する弾性部材により構成され、この弾性部材としては、スポンジ状の多孔性弾性部材、人工皮革やもしくは布を袋状にしたものでフェルトや綿等の繊維材料を内包したクッション状の弾性部材、又はゴム等の弾性部材が好ましく使用される。

【0021】上記ヘッド12をスポンジ状の多孔性弾性部材で作製する場合には、耐久性に優れた軟質の発泡させた合成樹脂からなる多孔性弾性部材が特に好ましく使用される。このような性質を備えた好ましい多孔性弾性部材としては、例えば、発泡ポリエチレン、発泡ポリウレタン等が挙げられる。

【0022】また、上記ヘッド12を上記のような合成樹脂製の多孔性弾性部材で作製する場合には、清掃布13の装着、取り外しがスムーズに行えるように、その表面の滑性を良好なものとしてすることが好ましく、このような表面滑性を良好にする方法としては、例えば、メルトーム加工(表面滑性を良好にする加工法)が挙げられる。

【0023】また、上記ヘッド12の形態は、清掃布13に応じて適宜変更可能であるが、例えば図2に示す実施形態のヘッド12のように、平面視して略U字状の輪郭を有するように先端部が先細る形態としたり、或いは矩形状の形態とすることができ、このような形態にすることで、角部や狭い隙間等の清掃をし易くすることができる。また、ヘッド12の厚さは、一定の厚さに設けたり、先端部に向けて薄くなるようにテーパーを設けたり、或いは幅方向外側に向けて薄くなるようにテーパーを設けることができる。特に、上記のようにテーパーを設けることは、角部の清掃を容易にしたり、狭い隙間の清掃をし易くする上で効果的である。

【0024】また、ヘッド12内には、ABS製板ばね(板状弾性部材)等からなる芯材18を配設することにより、所望の剛性としなりをヘッド12に付与することが好ましい。このヘッド12内への芯材18の配設は、ヘッド12を上記多孔性弾性部材や、クッション状の部材で作製した場合に特に効果的である。上記芯材18の実施形態は、ヘッド12の形態に合わせて適宜変更できる。上記芯材18は、ポリプロピレン、ABS、ポリカーボネート等の合成樹脂や、ステンレス、バネ鋼等の金属製のものが好ましい。この芯材18の下端部には、当該ヘッド12を柄11へ装着するための取具19(例えば、雄ねじ部材(図2参照))を設けることが好ましい。

【0025】ヘッド12は、多孔性弾性部材やクッション状部材で作製した場合には、内部に芯材18を配設することが好ましいが、比較的硬質のゴム等の弾性部材で作製した場合には、芯材18を除いた構成とすることもできる。

【0026】然るに、ヘッド12は、図2に示す如く、表面に多数の弾性突部12Aを備える。本実施形態において、弾性突部12Aは、柄11の軸方向に直交する薄板状をなし、厚み方向に連続して設けてある。例えば弾性突部12Aの高さを0.5~10mm、相隣る弾性突部12A、12Aの間隔(凹部の幅)を2~5mmとしている。清掃具10にあっては、清掃布13の拭取り部14を上記ヘッド12の多数の弾性突部12Aまわりに被着するものとなる。

【0027】清掃具10を使用する際には、まず柄11にヘッド12を螺着する。次いで、図3(A)及び(B)に示すように、ヘッド12に、上記清掃布13を被せるように装着して清掃具10の組立を完了する。

【0028】そして、比較的面積の広いテーブル等は、主として清掃布13の拭取り部14を利用して埃を拭き取る。また、はたきとして使用する場合には、はたき部15を利用して吸塵する。また、手元の拭き掃除には柄11を縮めた状態で使用し、高いところや奥まった隙間等の拭き掃除を行うときには、柄11を伸張させて使用する。

【0029】清掃布13の汚れがひどくなった場合には、図4(A)に示すように、清掃布13の先端部を摘んで引き抜き、ヘッド12から清掃布13を分離させる。そして、必要に応じて新規の清掃布に取り替えて清掃を行う。

【0030】従って、本実施形態によれば、以下の如くの作用がある。

①清掃布13の拭取り部14がヘッド12の多数の弾性突部12Aまわりに被着される。従って、拭取り部14を掃除対象物にこすり付けて汚れを拭き取るに際し、拭取り部14の背面の多数の弾性突部12Aが、拭取り部14の拭取り面に多数の凸状の汚れ掻取り面を形成する

とともに、拭取り操作力により弾性変形して該拭取り部14の拭取り面をバックアップし、結果として、拭取り部14による汚れ拭取り能力を向上する。

【0031】②弾性突部12Aの突起に清掃布13が引っ掛かり、清掃中にヘッド12より清掃布13が外れるのを防止する。

【0032】③薄板状弾性突部12Aの薄板に直交する方向への拭取り操作により、上記①による汚れ拭取り能力の向上をより確実にする。

【0033】以上、本発明の実施の形態を図面により詳述したが、本発明の具体的な構成はこの実施の形態に限られるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲の設計の変更等があっても本発明に含まれる。例えば、清掃具10を構成する柄11、ヘッド12、清掃布13の寸法、形状、材質等の形態は適宜に変更できる。

【0034】そして、ヘッドの表面に設ける多数の弾性突部は、薄板状のものに限らず、柱状、錐状等のいぼ状のものであっても良い。

【0035】また、ヘッドに被着された清掃布のヘッドへの保持は、ヘッド12の基部に保持手段を設けることができ、清掃布係着開口部やファスナー付きテープ等の

係着手段、クリップ等の挟着手段、ヘッドの幅方向外側に張り出る突張り係着手段等によることができる。

【0036】

【発明の効果】以上のように本発明によれば、拭取り部とはたき部を備えた清掃布を柄の先端のヘッドに設ける清掃具において、拭取り部による汚れ拭取り能力を向上することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】図1は清掃具の一例を示す模式図である。

【図2】図2はヘッドを示す模式図である。

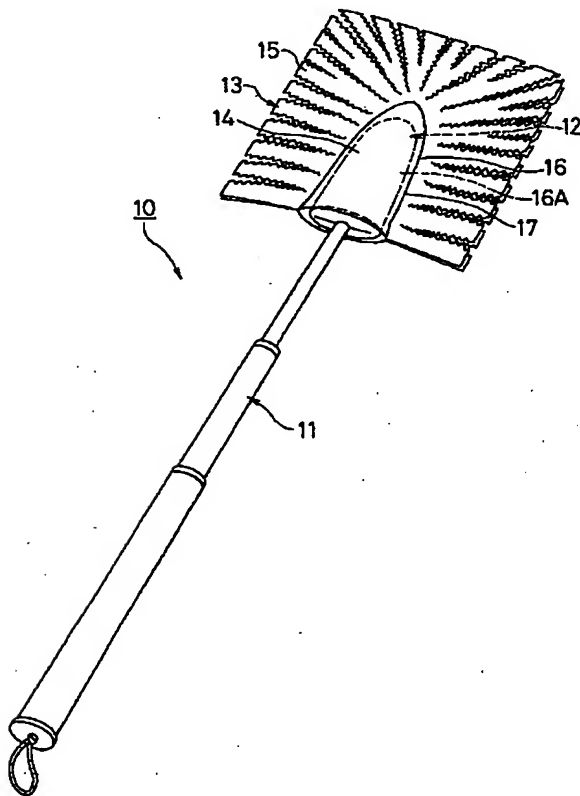
【図3】図3は清掃布の取付状態を示す模式図である。

【図4】図4は清掃布の取外し状態を示す模式図である。

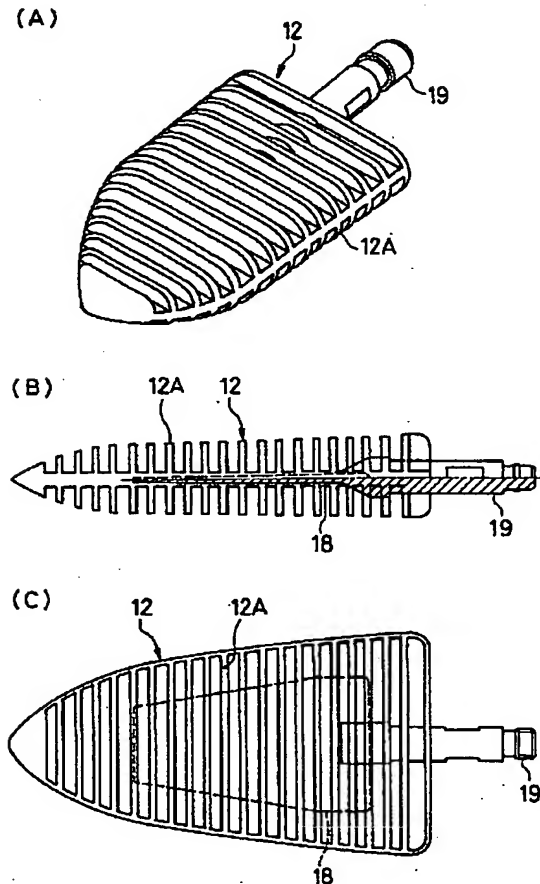
【符号の説明】

- 10 清掃具
- 11 柄 12 ヘッド
- 12A 弾性突部
- 13 清掃布
- 14 拭取り部
- 15 はたき部

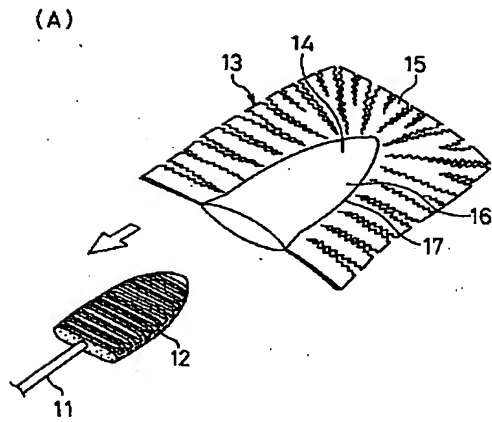
【図1】



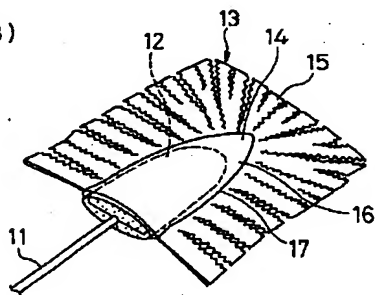
【図2】



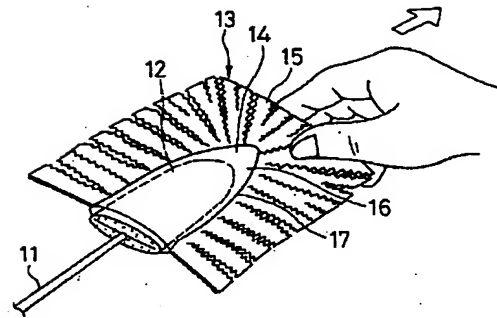
【図3】



(B)



【図4】



フロントページの続き

(72)発明者 世代 文彦
東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会
社研究所内